

令和 3 年 5 月 25 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00572

研究課題名(和文) 漢文原典を援用したソグド語の語彙研究

研究課題名(英文) Studies of the Sogdian vocabulary based on the Chinese originals

研究代表者

吉田 豊 (Yoshida, Yutaka)

帝京大学・付置研究所・教授

研究者番号：30191620

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、シルクロードの交易の民として活躍したソグド人の言語を解明を目的とした。漢文原典からソグド語に翻訳された仏典を主な研究対象にして、原典と対照することにより語義を確定することや、翻訳に反映されたソグド人の宗教文化を明らかにする為の作業を行った。その成果は多数あるが、禅宗文献からソグド語訳された仏典を発見したこと、トルファンで発掘された仏典に漢文以外の西域北道で流行していた小乗仏教の経典から翻訳された仏典があることを明らかにしたこと、その成果を英語論文として発表したことなどは国際的にも注目された。ソグド語研究それ自体の成果としてソグド語文法を完成させ、2021年に出版することになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ソグド人はシルクロードの交易の民として日本でも有名である。本研究は漢文原典からソグド語に翻訳された仏典を研究対象として、ソグド語の単語の意味を明らかにする作業を行った。ソグド語は西欧人が研究してきた関係で、一人の研究者が漢文とソグド文を扱うことが出来なかったために、漢文原典との対照研究は手薄であった。筆者は両方の文献を扱うことが出来るユニークな研究者として従来の研究の欠を補うという重要な意義がある。

研究成果の概要(英文)：During the three years' project Buddhist Sogdian texts translated from the Chinese originals were investigated mainly aiming at the elucidation of exact meanings of Sogdian lexical items. While preparing glossaries of each Buddhist Sogdian text I specified Chinese characters corresponding to Sogdian expressions. So far glossaries of major Buddhist Sogdian texts have been produced.

Apart from producing these glossaries, I was able to identify a Sogdian translation of a Zen text entitled Leque Shiziji of the eighth century. A few texts not based on Chinese originals were also identified among those unearthed from Turfan. This discovery is important from the view point of Sogdian Buddhism in that it shows that the Sogdian Buddhism was not entirely dependent on Chinese Buddhism. Sogdian monks visited cave temples located in the Kucha area and left several scribbles in a cursive script very difficult to read. In collaboration with Chinese colleagues I deciphered and published all of them.

研究分野：ソグド語文献研究

キーワード：ソグド語 中世イラン語 シルクロード 西域仏教 敦煌文書 トルファン文書 クチャ 千仏洞

1. 研究開始当初の背景

(1) ソグド語は印欧語族の中ではイラン系の言語に属し、現在のウズベク共和国の南部サマルカンドを中心とする古代のソグド地方で話されていた言語だが、中央アジアが完全にイスラム化する紀元 1000 年頃を境に死語となった。ソグド人はシルクロードの交易の民として、一時はシルクロード交易をほぼ独占し絶大な影響力を持っていた。その活動がピークに達したのは 8 世紀前半、大唐帝国が繁栄を極めた時期であった。当時シルクロードに沿った町や華北の都市には相当数のソグド人が居住していた。

(2) 中国やシルクロード上の仏教圏に定住したソグド人には仏教に改宗する者たちがおり、信者たちは仏典のソグド語訳を作成していた。それらのソグド語仏典の一部は、敦煌千仏洞の蔵経洞や、極度に乾燥した新疆ウイグル自治区のオアシス都市トルファンで出土している。20 世紀初めに発見されたこれらのソグド語仏典の解読は現在に至るまで着々と進んでいる。それによりソグド語仏典の大半は、中国語に翻訳された漢文仏典からの重訳であることがあきらかになった。

2. 研究の目的

(1) 上でも述べたように、ソグド語は死語であり未だに多くの不明な点が残されているが、原典と対照することによって語彙の意味を確定することができる。しかるに、従来ソグド語の研究はヨーロッパ人が行ってきている関係で、イラン系のソグド語を研究する研究者にとって、仏教や、ソグド語仏典の原典となっている漢文は直接理解することが困難で、中国学者の助けを借りて行われてきた。そのような背景があるために、日本で生まれこの国で教育を受け、中国仏教や漢文にも一定の知識を持つソグド語研究者である筆者は、漢文原典とソグド語仏典を対照しながら、仏教ソグド語の語彙集を作成する計画を思い立った。

(2) 究極的には、発表された文献だけでなく未発表の文献をカバーする仏教ソグド語文献全体の辞書を作成することが目標である。これらの仏教文献には未だに原典が解明されていない文献も少なからずあるが、当然それらの語彙も収録すると同時に、原典を解明する研究も行わなければならない。その際には、既に原典が比定されている仏典をもとに作成される漢字とソグド語の単語の対照表が大きな助けになると期待される。

(3) 作成された語彙集を利用して、仏教用語や仏教の概念がどのようにソグド語訳されているかを示す、ソグド語仏教用語集も編纂する。

(4) 未発表の文書を解読し発表することも、データの数量を増やすと言う意味で重要であり、機会を見つけて未解読文献に関する研究を蓄積することも目的である。

(5) 本研究は基本的に語彙研究であるが、この研究の重要な副産物はソグド語の文法研究にも一定程度貢献することであろう。

3. 研究の方法

(1) 仏教用語に限らず、中国語文献である漢訳仏典がどのようにソグド語訳されているかを総合的に研究するためには、人文科学の研究をサポートするデジタル人文学の手法が有益であることは明らかである。この手法に詳しいドイツ人の学生が申請者のところにソグド語を学ぶために留学していた機会に、将来の作業のためのデータベースの試作品を作成してみた。

(2) 漢文原典が特定されているソグド語仏典ごとに、伝統的な手作業で語彙表を作成する。その際、仏教用語に限定せず、原典の漢字とソグド語訳を対照できるように工夫する。これは非常に多くの時間が必要であった。

(3) 研究の過程で原典が特定できた場合や、未発表の文献や碑文を研究する機会が与えられたときには、随時それらを研究論文として発表する。

(4) どのような仏典がソグド語訳されるのかは、ソグド人の仏教文化を知る上で重要な問題である。ソグド人が建設した仏教寺院の遺跡が残る旧ソ連の共和国であるキルギスタン北部にあるアクベシム遺跡の発掘に参加し、この地域のソグド人仏教の実態について調査する。

(5) ソグド人の仏教文化、さらにそれをとりまくソグド人の宗教やシルクロードの宗教一般の背景についての知見を深める。ソグド人には唐代三夷教とも呼ばれる、景教(一般にネストリウス派と呼ばれる東方キリスト教)、祆教(ゾロアスター教)、摩尼教の信者もいたのであり、それ

らと仏教信仰の関係についても研究する。

4. 研究成果

以下では主に発表された成果を紹介するが、未発表でも今後語彙集を出版するために重要な準備作業については一部紹介することにする。

(1) 内容が比定されていない仏典の原典解明

トルファンで出土し、現在ベルリンの国立図書館が保管するソグド語仏典の貝葉本2点は、その写真がベルリンのトルファン学研究所のホームページ上に公開されているが、原典の比定が出来ていなかった。これが禅宗文献である『楞伽師資記』のソグド語訳であることを発見し、英語論文として発表した。〈引用文献(1)〉この発見は、ソグド人が当時中国で流行していた大乘経典だけでなく、中国固有の仏教思想である禅宗にも親しみ、その最初期の伝灯録をもソグド語訳していたことが判明したという点で重要であった。今後原典が判明していないソグド語仏典の中に禅宗の語録などが発見される可能性が出てきた。

同じくトルファンで出土し、サンクトペテルブルグの東洋学研究所写本部門に保管されている10数点の断片は、今から40年前に発表されていたが、一定の分量があるにもかかわらずどのような内容の仏典であるかは明らかになっていなかった。それが梵語仏典の *Divyavadana* の中の有名な説話である『舎衛城の神変』に対応することを発見して、英語論文として発表した。〈引用文献(2)〉これは内容が並行するだけで、現行の梵語仏典とは一致しない。この発見で、ソグド語仏典の中には漢文以外の言語によって書かれた原典からの翻訳があることや、残された仏典の中に、インドや中央アジアの仏教史の研究にも資する可能性があるソグド語仏典があるという極めて重要な事実の認識が得られたのは大きな収穫だった。同じ論文の中には、同じような翻訳背景を持つトルファン出土の小断片で、*Karmavibhanga* のソグド語版や、*Dasakarmapatha avadanamala* の *Kancanasara* 王物語のソグド語版の校訂テキストも含めた。

(2) 未発表の仏教ソグド語銘文の公刊

新疆ウイグル自治区のクチャ地区は、キジル千仏洞を始めとする洞窟寺院がいくつもあることで有名である。その洞窟内の壁面には、ここに巡礼に来た仏教徒が書いた稚拙な銘文が多数見つかっている。大半はこの地区の土着の言語であるトカラ語による題記であるが、10点ほどソグド語の銘文が残っている。この地区にいたソグド人仏教徒の痕跡を伝えるこの銘文は稚拙な草書体で書かれており、ソグド語であることすら分かっていなかったのがあったが、中国側からの依頼に基づき調査したところソグド語であった。それらの全点を解読し、中国で刊行された報告書に掲載した。〈引用文献(3)〉

(3) キルギスタンのソグド人の仏教信仰についての研究

2020年4月以降筆者は帝京大学文化財研究所の客員教授になっているが、同研究所はキルギス共和国北部にあるアクベシム遺跡の発掘を行っている。ここには8-9世紀にソグド人によって建築された仏教寺院の遺跡が発見されている。文字資料は見つかっていないが、発見された仏像などの遺物や、同時代に同じ場所で翻訳されたと筆者が推定するキリスト教ソグド語文献に、異教の神像に対する言及があることを発見し、それが密教の神像であることを明らかにすることができた。そして8-10世紀、東トルキスタンで流行していた素朴な密教の信仰が天山を西北に越えたセミレチエ地区にも及んでいたと論じ、英語論文として発表した。〈引用文献(4)〉

(4) ソグド語の文法研究への貢献

仏教ソグド語文献は歴史的背景を考慮すれば8世紀に成立したと考えられ、書体や言語特徴もその推定と矛盾しない。仏典に見られるソグド語には非常に多くの指示詞が用いられているが、それらは原典と対照したとき対応する漢語は見つからない。つまり、これらの頻度の高い指示詞は一種の定冠詞に変化していたと推定される。一般に定冠詞は西ヨーロッパの言語の特徴と見られていたが、ソグド語は西ヨーロッパの言語とは全く独立して、非常によく似た冠詞を発達させていたことが分かる。しかもこの冠詞は、10世紀のものと考えられるキリスト教ソグド語文献ではほぼ消失している。ソグド語の冠詞の成立や用法、衰退のプロセスについての研究成果を論文としてまとめ英語で発表した。〈引用文献(5)〉

(5) ソグド人のマニ教信仰についての研究

ソグド人は仏教以外にもマニ教も信仰していた。筆者は1981年にトルファンのベゼクリク千仏洞で発見されたほぼ完全な保存状態の3通の手紙を研究し、それらがマニ教徒によって書かれた手紙であることを明らかにしていた。当該の研究は20年前に中国語で発表されていた。しかるにこの間に、トルファンで発見されたソグド語文献の全点の写真が公開された。筆者はこれらの未解読の文献の研究を進めていたが、その過程で以前に発表した3通の手紙の研究を改善できる点が多数存在することに気づいた。その改訂版を学術振興会の出版助成金を獲得して英語による単行本として発表した。〈引用文献(6)〉

マニ教の関連では、10年ほど以前筆者は、中国江南で14世頃製作されたマニ教絵画が10点ほど日本に保管されていることを明らかにしたことがあった。〈引用文献(7)〉マニ教絵画が、ほぼ完全な形で日本に残されていることを明らかにしたことは、世界的な大発見として注目され、

新聞紙上にも取り上げられた。その後も日本における中国江南のマニ教絵画の発見は続いている。〈引用文献(8)〉江南のマニ教徒が祭儀で使っていたと考えられるマニ像が、2年前に完璧な状態で発見されていたが、それに関する解説も発表した。〈引用文献(9)〉そのマニ教と仏教との接触を示唆するマニ教ソグド語文献も発見することができたが、それについての論文も発表した。〈引用文献(10)〉

(6) モンゴル高原で発見されたソグド語碑文についての研究

モンゴル高原ではソグド語の碑文が3点発見されているが、それらすべてについて現地での調査を踏まえて研究し発表した。〈引用文献(11), (12), (13)〉そのうちブクト碑文は、6世紀後半の突厥人の仏教信仰に関わる碑文であるという通説を、あらたに銘文を解読し直すことによって否定し、可汗の継承の正当性を主張する内容の碑文であることを明らかにすることができた。9世紀はじめのカラバルガスン碑文は、ウイグル人がマニ教を国教として導入した経緯を記録した3言語(ウイグル語、漢文、ソグド語)併用碑文としてつとに有名であった。しかしウイグル語版はほぼ完全に失われ、漢文版は全体の3分の1ほど、ソグド語版は4分の1ほどしか残されていなかったため、研究は困難を極めていた。筆者は長年研究を蓄積してきたが、大阪大学名誉教授森安孝夫と共同で漢文版の研究を発表した上で〈引用文献(14)〉、懸案のソグド語版の解読を発表することができた。またカラバルガスン碑文には遊牧民の国家であるウイグル可汗国と同時代のアッパース朝との交流の証拠が残されていることに気づき、そのことを論じる論文も発見している。〈引用文献(15)〉

(7) その他未発表の研究

漢文を原典とするソグド語仏典全点について写本ごとの語彙表を作成した。その各語彙項目は、以下にソグド語訳の『観仏三昧海経』(Dhyと省略してある)に見られる1つの動詞をサンプルとして示すように、語彙の文法分析に加えて、対応する漢字を掲載するようにしてある。しかしこれはまだ公刊できる段階にはなっていない。

f'yr/ vb. tr. 'to extend'

~ 舒 Dhy 254; ~ 申 Dhy 299, 385, 386, 402

—Forms: 3 sg. pres. f'yrt Dhy 385; 3 pl. pres. f'yr'nt Dhy 386, 402; 3 sg. fut. fyrt k'n Dhy 254; 3 pl. fut. fyr'nt k'm Dhy 299; 3 pl. inj. f'yr'nt Dhy 298

別に、仏典に限らず、ソグド語文献全体に見られる梵語などのインド語の借用語を蒐集し、ソグド語形を見出し語とするリストを作成した。これはインド語を見出しとしたリストも作成して公刊したいと考えている。

日本においてソグド語研究の後継者を育成することは、日本でソグド語を研究する者の使命であり義務であると理解しているが、残念ながら京都大学に在職中は後継者を育成することができなかった。ソグド語のようなマイナーな言語を専門とすることは、研究職を得る上で極めて不利であり、学生が敬遠する事が一因であると考えられる。筆者はその次善策として、ソグド語文法を独習できるように、日本語で書かれた文法を、練習問題と解答、語彙集(ソグド語・日本語; 日本語・ソグド語)を添えて作成し、臨川書店から刊行するべくこの4月に編集者に原稿を渡した。この文法書は学習者用であると同時に、文法研究の最新の研究成果を掲載し、専門書としても使用に耐えるように工夫した。また、純然たる言語の研究者以外に歴史研究者も使用できるように、付録としてソグド語の度量衡や曆と紀年方法などの解説を添える工夫をした。そのため全体の分量が増え、500頁を超える巨大な本になる予定である。〈引用文献(16)〉

< 引用文献 >

(1) Y. Yoshida, "On the Sogdian version of the *Lenque Shiziji* and related problems", *Asian Research Trends New Series*, No. 13, 2018, pp. 1-30.

(2) Y. Yoshida, "On the Sogdian *Pratiharya-sutra* and the related problems—One aspect of the Buddhist Sogdian texts from Turfan—", *Acta Orientalia Hungarica* 72/2, 2019, pp. 141-163.

(3) 吉田豊「古代龜茲境内現存粟特文石窟題記」(慶昭蓉訳), 榮新江主編『龜茲石窟題記 研究論文篇』上海: 中西書局 2020, pp. 71-91.

(4) Y. Yoshida, "Some problems surrounding Sogdian esoteric texts and the Buddhism of Semirech'e", 帝京大学文化財研究所研究報告第19集, pp. 193-203.

(5) Y. Yoshida, "On the Sogdian articles", *Annual report of the International Research Institute for Advanced Buddhism at Soka University for the academic year 2018[2019]*, Vol. XXII (創価大学国際仏教学高等研究所年報 平成30年度 22号), pp. 261-285.

(6) Y. Yoshida, *Three Manichaean Sogdian letters unearthed in Bāzāklik, Turfan*, Kyoto 2019.

(7) 吉田豊 / 古川攝一(編)『中国江南マニ教絵画研究』京都: 臨川書店, 2015

(8) Y. Yoshida, "The Discovery of the South Chinese Manichaean Painting "Hagiography (3)" and its contents" (with H. Kumamoto), *Rivista degli Studi Orientali*, XCII/1-2, 2019, pp. 209-230.

(9) 吉田豊「地蔵菩薩像(マニ像)」『國華』1495, 2020/5, pp. 33-34 図版5(古川攝一と共著)

- (10) 吉田豊「佛教與摩尼教的接觸——一件新刊粟特本的再研究」『敦煌學』第36期, 2020年8月, pp. 105-118.
- (11) Y. Yoshida, “Historical background of the Sevrey Inscription in Mongolia”, in: H. Chen and X. Rong (eds.), *Great journeys across the Pamir Mountains: Festschrift in honour of Zhang Guangda on his eighty-fifth birthday*, Leiden/Boston 2018, pp. 140-145.
- (12) Y. Yoshida, “Sogdian version of the Bugut Inscription revisited”, *Journal Asiatique* 307/1, 2019, pp. 97-108.
- (13) Y. Yoshida, “Studies of the Karabalgasun Inscription: Edition of the Sogdian Version”, *Modern Asian Studies Review*, vol. 11, 2020/3, pp. 1-139.
- (14) 吉田豊「カラバルガスン碑文漢文版の新校訂と訳注」『内陸アジア言語の研究』XXXIV, 2019, pp. 1-59. (森安孝夫と共著)
- (15) 吉田豊「カラバルガスン碑文に見えるウイグルと大食関係」『西南アジア研究』89, 2019, pp. 34-57.
- (16) 吉田豊『ソグド語文法：解説と練習問題』（2021年臨川書店から刊行予定）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 72
2. 論文標題 On the Sogdian Pratiharya-sutra and the related problems	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungarica	6. 最初と最後の頁 141-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1556/062.2019.72.2.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 307
2. 論文標題 Sogdian version of the Bugut Inscription revised	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal Asiatique	6. 最初と最後の頁 97-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2143/JA.307.1.3286342	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 92
2. 論文標題 The discovery of the South Chinese Manichaean painting Hagiography 3	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Rivista degli Studi Orientali	6. 最初と最後の頁 209-230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19272/201903802016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 吉田豊	4. 巻 89
2. 論文標題 カラバルガスン碑文に見えるウイグルと大食の関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 34-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田豊	4. 巻 59
2. 論文標題 9世紀東アジアの中世イラン語碑文2件	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 97-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 13
2. 論文標題 On the Sogdian version of the Lenque Shiziji and related problems	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian Research Trends	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 22
2. 論文標題 On the Sogdian articles	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annual report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University for the academic year 2018	6. 最初と最後の頁 261-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田豊	4. 巻 58
2. 論文標題 ブグト碑文のソグド語版について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都大学文学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 吉田豊
2. 発表標題 ソグド人研究の新展開
3. 学会等名 第64回国際東方学会会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yutaka Yoshida
2. 発表標題 Training of scribes along the Silk Road
3. 学会等名 Beijing Forum（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yutaka Yoshida
2. 発表標題 New Edition of the Sogdian Version of the Karabalgasun Inscription
3. 学会等名 Hu-manuscripts and the ancient civil tradition 北京大学人文社会科学研究院（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田豊
2. 発表標題 カラバルガスン碑文のソグド語版について
3. 学会等名 東方学会2019年度秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田豊
2. 発表標題 ソグド人と景教 ソグド語の密教經典とセミレチエ仏教
3. 学会等名 2019年度 シルクロード研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yutaka Yoshida
2. 発表標題 Some problems surrounding Sogdian esoteric texts
3. 学会等名 Buddhist Road: Bochum University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yutaka Yoshida
2. 発表標題 Sogdian version of the Bugut inscription
3. 学会等名 Permanent International Altaistic Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田豊
2. 発表標題 イラン語文献に見えるシルクロードの女性の生活
3. 学会等名 シルクロードを掘る（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Rinsen Book Co.	5. 総ページ数 278
3. 書名 Three Manichaean Sogdian letters unearthed in Ibezeklik, Turfam	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 beijing Forum	開催年 2019年～2019年
-------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------